アメリカ春期英語研修

人文社会学部　人間社会学科　教育学教室　3 年

授業

まず初めにクラス分けのテストが行われ、その結果に基づいたクラスに振り分けられて授業を受けました。授業で扱われる内容は大きくリーディング、リスニング、ライティング、ディスカッションに分けられますが、当然英語で授業が行われるので常にリスニング能力やスピーキング能力が必要とされると感じました。授業のレベルは高く、単語の意味を英語で説明する課題や細かい発音の矯正などは今までの日本での英語学習にはなかったものだったのでとても印象に残っています。授業は平日の午前中にあり、1 週間を一つの単位として金曜日にその週で勉強した内容のテストやスピーチなどの発表が課されました。

私が配属されたクラスは 15 人前後の規模でほとんどの都立大生と同じクラスだったため、日本人の割合が高かったです。日本の他には韓国や台湾、カザフスタンなどの国から参加されている学生がいました。ペアワークなどで積極的に他国の方と関わっていくことで海外の文化や慣習について知ることができたのも今回の研修の収穫であったと思います。

研修 3 週目からはコロナウイルスの影響で徐々にペアワークが廃止されたり、対面の授業ができなくなりましたが、現地のスタッフの方々がご尽力してくださったおかげで ZOOM による授業に切り替わるという形で学習を続けることができました。

生活

3 月のサンディエゴの気候は日中過ごしやすく、朝晩冷えることもあったのでパーカーや長袖を着ることが多かったです。時差ぼけはあまり感じませんでしたが、サマータイムへの移行時に日の傾き方と時刻の感覚が前日までのそれと変わったのは不思議な体験でした。

寮はリビングやキッチンを 3 人から 4 人で共有し、さらにその中の 1 人ないし 2 人で寝室とユニットバスを共有するという形でした。私は都立大生と寝室を共有し、もう 1 人の他の日本人の方と共有スペースをシェアしましたが、他の国の学生と同部屋になるケースもあるようです。個人的には部屋の設備の説明を日本語で受けられて助かった反面、部屋では日本語

ばかり使ってしまうことになったので残念でもありました。部屋は広くきれいで、無料で利用できるジムも併設していたのでよく体を動かしに行きました。ルームメイトとは食費を抑えたいという点で意見が一致していたので食事は基本的に自炊をして、たまにキャンパスで昼食をとるという食生活でした。寮から学校まではバスで通っていたので、学校帰りにスーパーに寄って食材を購入していました。

休日は学校主催のアクティビティーに参加したり、近くのビーチに行ったりして過ごしました。コロナウイルスの影響で遠方の有名な観光地には行けませんでしたが、地元の教会で礼拝を見学させて頂いたり、ビーチで片っ端から現地の方に話しかけるなど、制約のある中で有意義な時間を過ごすことができたと感じています。

研修で学んだこと

研修に参加したことによる自分自身の最大の変化として、大胆な行動がとれるようになったことが挙げられると感じています。研修中、「せっかく来たからには」と迷ったことにはどんどん挑戦していく中で、だんだんと積極的な自分が形成されていく実感がありました。新しいことに挑戦するという意味では、アメリカ語学研修は素晴らしいきっかけになると思います。

前述したように研修３週目からは対面授業の中止、帰国予定便の欠航、スーパーからは飲料水をはじめ物資が品薄に、というイレギュラーな事態にはなりましたが、現地のスタッフの方や都立大国際センターの先生方、国際課の職員の皆様が尽力してくださったおかげで無事に帰国することができました。早急に対応してくださった皆様、本当にありがとうございました。